

# 目 介 祐



大田ゆうすけ

(福山市議会議員)

No.2

毎月1日号に掲載

来の少数激戦の話である。代表的な組織として共産党(4議席)と公明党(7議席)を例にすると、議席占有率は両党合わせて約25%となる。では全有権者の25%が共産党と公明党の支持者かということ、実際はその半分程度ではないか。しかし、その全員が投票すれば、投票率50%の選挙においては倍の議席を獲得できる。逆に多数が立候補して投票率が上がれば組織は相対的に弱体化し、新人にもチャンスが回ってくる。(政党批判ではない)

## 市議会議員選挙

「27日くらい!」

来年4月の福山市議会議員選挙(定数40)まであと半年となった。そろそろ新人の誰が出るとか、現職の誰が引退するといった話が囁かれだす時期だ。ここ最近の選挙を振り返ると定数の1割増し程度しか立候補せず、投票率は50%台前半で推移している。さらに最近の政治不信が「誰がなっても一緒でしょ?」という風潮に拍車をかけている。

しかし、こんな時代だからこそ「我こそは」という新人が待望されている。まだまだ戦後の混乱が続く昭和26年の市議会議員選挙では定数36に対して97人が立候補するという大激戦で、投票率はなんと95%を超えた。立候補者の数からだけでも戦後復興にかける市民の思いが伝わってくる。

よく選挙は地盤(組織)看板(知名度)鞆(資金)の「3バン」が必要と言われるが、それは従

もちろん候補者自身の努力も必要だ。あの「AKB48総選挙」ではCDを買ってまで投票した人が百万人を超えた。背景にある商業ベースに乗ったこともあるが、メンバー1人1人のひたむきな努力が若者の心をつかんだという。対して市議の切磋琢磨が足りないことを有権者は見ている。それは議論のレベルの低さである。最近では私が発議者となった「議場に国旗を」という請願に対してほとんど議論することなく継続審議(先送り)となった。

福山市は国旗に敬意を示さない人が議員になれる寛容な町なのだから、「福山を良くしたい」という方はぜひ勇気を出して立候補して欲しい。